

夢はありますか？ 夢がある人の人生、ない人の人生

*司会：

続きまして、国際ビジネス誌編集長であり、世直しボクサーとしても活躍中の吉川英治様からご報告をいただきます。それでは吉川様、よろしくお願いいたします。

(ビデオ)

どうも。もうちょっと拍手があった方がいいな (笑)。ビデオの方が格好いいね。いいこと言ってるしね。さっきから引きこもりとか、そういうのがあって、おれのところにもいっぱい話がきて、学校の先生が、学級崩壊だから、いじめがあるから来て直してくれという電話がよくあるんですけど、行かないって。だって、あんたらプロだろ、お金もらってんでしょ、職業でしょ、毎日会ってんでしょ、やれよって。何でおれが500キロ離れた所から行って1時間で直すんだ、人のせいにしやがって、と言うんですけどね。

あと、よく、うちの子は引きこもりでどうにかしたいとかいうお父さんやお母さんに言うんだけど、あんただって日本に引きこもってるんでしょって。そう、人を正そうとか、人を変えようなんていう前に自分を変えなければ全然話にならないわけであって。

きょうは大学生いないかな、ここ。何かおじさんばかりだな。まあいいや、大学4年とか行くの偉いなと思って。おれ、幼稚園から小学校に入ったときに、小学校は6年間だといわれたときに、6年ってどれぐらい長いんだろうってわかんなくて。でも、がんばって毎日行ったの。で、1カ月たったときに、当時は土曜日まで授業があったから、朝から晩まで、とにかく人のやる気を完全にだめにしてくれる先生たちのオンパレードで、1カ月行ったときに、これはまずいと思った。クラスに1月から12月までのカレンダーがあったから、これを12回やって、それで1年、それを6倍してやっと小学校終わる。その次に中学がまた3年。それを聞いておれは、これはいかんと思ってあることを始めたんですけど、夜寝るときに布団を敷いて、布団のところで手を合わせてね、神様、でっかい台風でおれの学校を吹っ飛ばしてください。そうやって祈って、台風はいっぱい来たんだけど、窓を開けると地平線に学校が建っててね、あーと。でもまあ給食と体育があるから行くかつって行って。

後から人が教えてくれたんですけど、役所の人。吉川さんね、うちの町の百何年かの歴史で、保育園から高校まで皆勤賞はあんただけなんだと言ってきて、1秒も欠けたことないんですよ。それがすごいかという全然すごなくて、生きることは殺すこと、寿司屋に行ったら、魚を食べて殺してるし、チキンも好きだし、だからといって肉食主義にしたって、シャンプーや石鹸でいっぱいバクテリア、人間の命の礎を絶ってる。だから、生きてるからには絶対に地球のために、世界のために役立って死なないと、ただの食い逃げ人生になっちゃう。

だからといって、どんなにがんばっても1つの命さえ取り返すことはできない。飯の上に乗った500匹のチリメンジャコの赤ちゃん、あんなの食うのやめてほしいけど、赤ちゃんの命を取り返すことはできない。だからこそ、力いっぱい地球のために働いてから死なないと不公平なんでね。

だから、おれは歩くときね、普通の人はいくち歩いて歩くけど、おれの歩き方って、こうやって蟻を踏まないように歩いてるんですよ。蟻さんかわいそうだから、セメントの犠牲者だから、あれが地面だったら死ななくていいのに、人間が勝手にセメントだのコンクリートだの作って。

それから、人に、おばあちゃんが立ってるのに優先席でサラリーマンが漫画読んでる。それに、こらどけと席を替わらせたらね、そういうのをやってたら、おれは何か偉い人だとかってテレビに出るようになって、それは絶対におかしい。そんなの当たり前だって、そんな当たりの最低限のことさえないのにどうして正義ができるか。一番レベルの低いことしかおれはやってないのにそんなになっちゃって。

で、ビデオとか見るとよく勘違いされるんですけどね、吉川ってやつは勇気があるとか、そういうふうには思われちゃうんですけど、全然大間違いで、ジムに行ってた日々、当時、自分の先輩は具志堅さんで世界チャンピオンで、渡嘉敷とか一緒にやってて、世界チャンピオンが3人、日本チャンピオンが5人ぐらいいるジムで、毎日殴られて、自分の血で真っ赤っ赤になるんですよ、シャツが、自分の血ばっかり。で、もうジムに行くのが嫌で嫌で嫌で嫌で、朝から晩までおれが何をやってるかという、ジムに行かない言い訳を考えてるんですよ。ああ、首が痛い、顎が外れてる、ああ、足の裏むけてる、拳が潰れてる、背中がかゆい。何でもいいんですよ、一日中考えてて。でも、最後に定期入れにある言葉を入れてて、それを読んで、ああ、行くしかねえわと覚悟を決めてジムに殴られに行ってたんですけど、その時の言葉の裏話にとってもいいことがあるけど、それを話すと30分かかるからやめて、とにかく言葉を紹介しましょう。

どういう言葉を読んでジムに行ったか。

「不可能な夢を見る。かなわない敵に挑む。耐えられない悲しみに耐える。勇者でさえ行かない場所におれは行く。正せそうもない不正を直す。遠くの知らない国の知らない人のことも愛する。へ口へ口になっちゃって下がった手も持ち上げるんだ、あの星に届くために。これがおれの道。あの星が目がけること。遠過ぎるなんて関係ない。不可能なんて気にしない。正義は1つ、正義のために戦う。躊躇なんか全然しない。高い、高い理想のためには、低い、低い地獄に入ろう。そういう目標を持って生きていかないと、おれは棺桶に入ったときにちゃんと眠れやしないんだ。それで世界はほんのちょっとだけ良くなる。このちっぽけなやつが、木端微塵に倒されて、そこに朽ち果てても、それで世界はほんのちょっと良くなる。最後の1グラムの勇気は搾り切って、使い切っちゃう。あの星に届くために。これがおれの道。」

人を注意してね、恐くないか、刺されたりするぞって。それは恐くない。でも、おれはとっても恐いから、勇気があるからじゃなくて、とても恐いから注意してるんだ。ほら、サラリーマン立てとか、おっさん歩きタバコするんじゃないって、おれは刺されて死ぬことよりも、こんな人間になることが嫌なんだ、精神の死が嫌なんだ。文句を言っておれが損したら嫌だから言うのを止めようって、そんな人間になっておれは生きていたくない。自分が可愛いから、それは黙っていよう。そんな人間だったらおれは絶対生きていたくないね。だから、そういう意味で、おれは心が死ぬのがすごく恐くて注意してるんです。心の話、スタント教授もさっき言いましたけど、人間で一番大事なのは心。心に、心を一番増やして、熱くして、でかくする。そうすると、そこから脳みそや、心臓や、体に栄養が行くわけであって、その反対をよくやってるからね、心は殺しちゃえみたいな。それは大間違い。心を満杯にすれば全部伸びちゃう。

うちのボクシングジムで選手や生徒たちに、もっとやれ、もっと行けなんて言ったことはおれは一回もないんですよ。だって、みんなやりたいんだから、やりたくなっちゃってるんだから。ここに来れば夢は叶うと信じてるんだから。むしろ、おまえそんなにやらなくていいよとブレーキをかけるぐらい。そのぐらいみんなやる。おれは楽なコーチしてたな。

あんまり学生がいらないから言い甲斐がないけど、There is nothing to lose, nothing to lose. みんな失うもの

がいっぱいあるように生きてるけど、失うものなんか絶対にない。絶対にない。生き切らないと。それで、何かをやるときに、おれは絶対に自分を疑ったことがないね。絶対できると信じてやる、何をやる時も絶対できると信じてやる。で、自分を信じられなくなったら人生はない。自分を信じられない人に人生はない。それから、自分を信じることはどういうことだというと、できない人というのは結局は自分への探究がない。自分の探究をとことん、命をかけてやらない限り、永遠にだめ。本を1,000冊読んでもだめ、講義を1,000回聞いてもだめ。自分の探究。で、自分の探究はどうするかというと、部屋にこもっちゃいけない、世界に行かないと自分は見えない。だから、逆のようだけど同じなわけね。自分を知るためには世界を見ないと不可能。

最後の方に早稲田の人がしゃべるといったから、そっちをすごい楽しみだな。その中の人でうち、外国の出版社とかやってるけど、誰か二、三人、人を雇いたいと思ってるから頼むよ、手伝ってくれ。それで、やる気を持った人なら何にしてもうまくいくからね、信じてるから頼むよ。どうも、ありがとうございました。(拍手)

***司会：**

ありがとうございました。